

【認知症対応型共同生活介護用】

1. 評価報告概要表

作成日 平成21年 9月30日

【評価実施概要】

事業所番号	0572710226
法人名	特定営利活動法人 ファミーユ
事業所名	グループホーム ゆっくりゆっくり
所在地	横手市十文字町上鍋倉勘六字雷9 (電話)0182-55-2828
評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団
所在地	秋田市御所野下堤5丁目1番地の1
訪問調査日	平成21年 9月 30日

【情報提供票より】(平成21年7月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)6年 9月15日
ユニット数	2ユニット 利用定員数計 18人
職員数	11人 常勤 11人, 非常勤 0人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1階建ての ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000~27,000円	その他の経費(月額)	高熱水費1号館7,000円・2号館8,000円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000円	

(4) 利用者の概要(平成21年10月20日現在)

利用者人数	15名	男性	2名	女性	13名
要介護1	1名	要介護2	3名		
要介護3	7名	要介護4	2名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 84歳	最低	59歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	秋田県厚生連平鹿総合病院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは田園地帯に囲まれた集落の中にあり、1号館は既存の民家を改修しており、2号館は新しく建造されている。ホームには広い庭があり、花や野菜が栽培され、夏には木陰を提供する木々が秋には実を实らせ、利用者が日常的に散歩や花摘み、収穫などを楽しむことができる。収穫した物は、利用者や職員の手によって、早速食卓にのせられる。調理方法もできるだけ利用者の力を発揮してもらえよう工夫している。また、もともと集落に馴染みの住宅だったことから、地域住民も気軽に庭の草刈等に訪れている。今後は木立の間に散策路を整備し、更に有効活用したいと計画している。職員はお互いにより良いケアが出来るよう、提案し合える関係が出来ており、日々の業務が利用者の視線で考えられている。各ユニットごとの雰囲気はスタッフの関わりを反映してそれぞれ個性的であるが、利用者を中心にした過ごし方が両ユニットとも展開されていた。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での主な改善課題は特に無いが、日々向上心と問題意識を持って業務に取り組んでおり、地域密着型サービスの目的とする、「対象者の尊厳の保持、地域に開かれたサービス」に向かって努力している。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、職員が個々に評価確認し、管理者によって取りまとめられている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は二ヶ月に一回実施し、市の担当者や利用者、家族、地域住民などが参加している。会議ではホームの状況を報告説明し、家族も本人への関わり方への希望や、ホームへの意見を話す良い機会になっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	苦情受付の窓口、担当者を重要事項説明書に記載している。年4回発行のホーム便りに電話番号を載せ、いつでも苦情等に対応していることを明記している。思っていることを引き出すためには、信頼関係の構築が重要と考えており、運営推進会議などの機会に家族との意見交換を十分にしていきたいと考えている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームには広い庭があり、日常的に地域住民が出入りしている。また、小さい集落であることから、集落の集まりや共同の活動には管理者が参加し、地域住民の一員としての役割を担っている。

2. 評価報告書

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1.理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	企業理念には、ホームの名称に表されるような「利用者のペースの尊重」と、それを支える「職員の専門職として持つべき姿勢」が具体的に示されており、会議などの機会に再確認されている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営者、管理者、職員は運営理念を意識しながら日々過ごしており、それは職員の動き方や入居者に話しかける姿勢、ホームの開放的な雰囲気にも現れている。また、会議等においても、運営者、管理者、職員は職制にかかわらず、活発に意見交換をしており、風通しの良い職場となっている。		
2.地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の小学生の訪問があったり、町内の一員として地域の行事に参加したりしている。更に、地域の中で介護の相談などにも応じられることをアピールしていきたいと考えている。		
3.理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員各自が記入し、管理者がまとめている。職員は外部評価についても自分たちの問題として促え、改善のための取り組みを行っている。タオルの使用を個別にしたりと、自己評価の結果を基にすぐに対応した事柄もあった。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は二ヶ月に一回開催され、市の担当者や入居者の家族、地域住民などが参加している。会議ではホームの状況を報告しているほか、家族もホームへの要望等を話しており、サービスの向上に活かされている。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	横手市高齢福祉課との連絡体制があり、相談に対し助言も得ている。また、市担当者はホーム行事へも参加している。今後も、更にホームの状況を知ってもらうため、行政側に積極的に働きかけていこうと考えている。		
4.理念を实践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時や電話の際には、利用者の生活状況について報告している。また、利用料請求等の連絡時には文書にて状況報告をしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付の窓口、担当者を重要事項説明書に記載している。また、年4回発行のホーム便りに電話番号を載せ、いつでも苦情等に対応していることを明記している。苦情になる前に家族等と話を話し合えるよう、日頃の信頼関係作りにより力を入れている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は最小限に留めており、利用者への影響は殆んどない。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内研修には殆どどの職員が参加し、研鑽に努めている。外部の研修については、研修内容に応じて受講する職員を参加させ、参加回数にも偏りの無いよう配慮している。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>横手市グループホーム協会に参加し、交流する機会を持っている。また、市の組織である南部グループホーム交流会にも、二ヶ月に一回定期的に参加し、同業者相互の交流を図っている。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用の希望や相談があった場合はホームを見学してもらい、利用者や職員と過ごした上で、本人の気持ちを一番に考えながら利用を検討いただいている。利用を開始した場合は、徐々に生活に馴染んでいけるよう、職員が他の利用者との仲立ちをするなどの配慮をしている。</p>		
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は利用者と共に生活することを意識した関わり方を心掛けている。畑仕事のことや料理の方法など、職員が教えてもらうことも多く、相互が助け合える環境作りを心がけている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員は、本人の思いや意向を日常の関わりの中から聞き取るようにしている。また、家族や第三者である介護相談員にも定期的に入ってもらい、思いや意向の把握に努めている。</p>		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>ミーティングなどで情報を交換し、利用者、家族と相談しながら介護計画を作成している。利用を開始して間もない方には、毎日の状況を申し送りながら、きめ細かく具体的にケアの内容を見直している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は、適切にモニタリングが行われ、次の介護計画に繋げている。状態の変化に際しては、本人・家族・関係者と話し合いながら、必要に応じて随時見直しを行っている。現在も、様々な状況が好転してきた利用者へ家庭復帰の方向性が見え、随時対応を検討している。</p>		
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>常に訪問しやすい雰囲気を作るよう心がけている。今まで問い合わせ等はなかったが、家族の宿泊希望などがあれば応えられるよう検討している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の意向を尊重しながら、かかりつけ医を選択している。必要に応じてすぐに電話で相談出来る体制にあり、職員も心強く感じている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在のところ看取りは行わない方針なので、利用開始時に他施設への申し込みを提案したり、利用者のADLが低下したりした場合は、医師や家族と話し合いながら本人にとって望ましい対応方針を決めている。今後はターミナル期の支援について検討することも考えている。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1.その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	居室には名札を掲げず、目印になるもので対応している。利用者の尊厳を守ることにについては勉強会などで確認し、声掛けや対応には十分注意するよう配慮されている。また、利用者個別の記録等は事務所内に保管されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分で外に出たいとか、栗の実を拾いに行きたい、花を摘みに行きたい、などの利用者の思いを受け入れ、一人ひとりのペースを尊重しながら危険の無いようさりげなく見守っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は利用者と職員が同じテーブルで摂っている。また、テーブル拭きや調理の下ごしらえ、食器の後片付けなどができる方には、好みに応じて参加してもらっている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は一日かけてゆっくり入っていただくようにしている。声を掛けた時に気が進まないようであれば、また後で誘うようにするなど、利用者個別のペースを尊重している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	庭に作られた畑を活用した農作業や、庭の木々から収穫された果実を利用した家事など、得意にしていることを生活に活かせるよう取り組んでいる。訪問時は、庭で拾った栗を用い、栗きんとんを作り、ふるまっていた。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出は自由であり、個々の状況によって安全に過ごせるよう対応している。調査当日も自由にホームを出入りする方が何人か見受けられた。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	日中は、各ユニットとも鍵をかけていない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>職員は、ホーム周辺の危険箇所を把握し、安全確保に努めている。消防署の協力を得て防災訓練を実施しており、火災等の発生時には近隣の応援を得られる体制にある。居間からは車椅子でもすぐに庭に出られるよう、スロープが設置されている。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事や水分の摂取は毎回チェック表を用いて把握している。また、利用者の状況に応じて、魚の身をほぐすなど個別に食事の形態等を工夫している。</p>		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>昔のたんすや、落ち着いた色調の絵画などが配置され、居心地の良い空間となっている。一号館では昔ながらの和の雰囲気も漂っていた。浴室は歩行困難な方にも対応できるように、バスボードなどの自助具を設置する工夫がされている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者の居室には、すべて本人が使い慣れたものが運び込まれている。家具や写真等、利用者が居心地よく過ごせるような居室環境となっている。事情があって利用者が準備できないものについては、ホームでできる限りの支援をしている。</p>		

は、重点項目。